

## ソウル市における障害者政策のアジェンダ（行動計画）分析

○三育大学 PARK CHANO

三育大学 YOON JAE YOUNG

### 1. 研究目的

本研究の目的は、ソウル市が政策として解決すべき障害当事者の公的なアジェンダ（行動計画）を導出、構造化し、その意味を分析することにある。

### 2. 研究の視点および方法

このため、概念地図を使った研究方法 (Concept Mapping) を活用した。ソウル市に居住し、市に障害者政策の提案が可能な、社会的に弱い立場にある障害者25名を4つの集団(重度身体障害者9名、障害児の親6名、知的障害者・自閉症者5名、精神障害者5名)に分けてブレインストーミングを実施し、重度障害をもつソウル市民によって作られた95個の政策アジェンダを導出した。このアジェンダについては、障害当事者及び専門家12名が各アジェンダについて分類(grouping)と評定(重要度及び実現可能性)作業を行い、この作業を通して得た資料はConcept System Core (v4.0)により分析した。

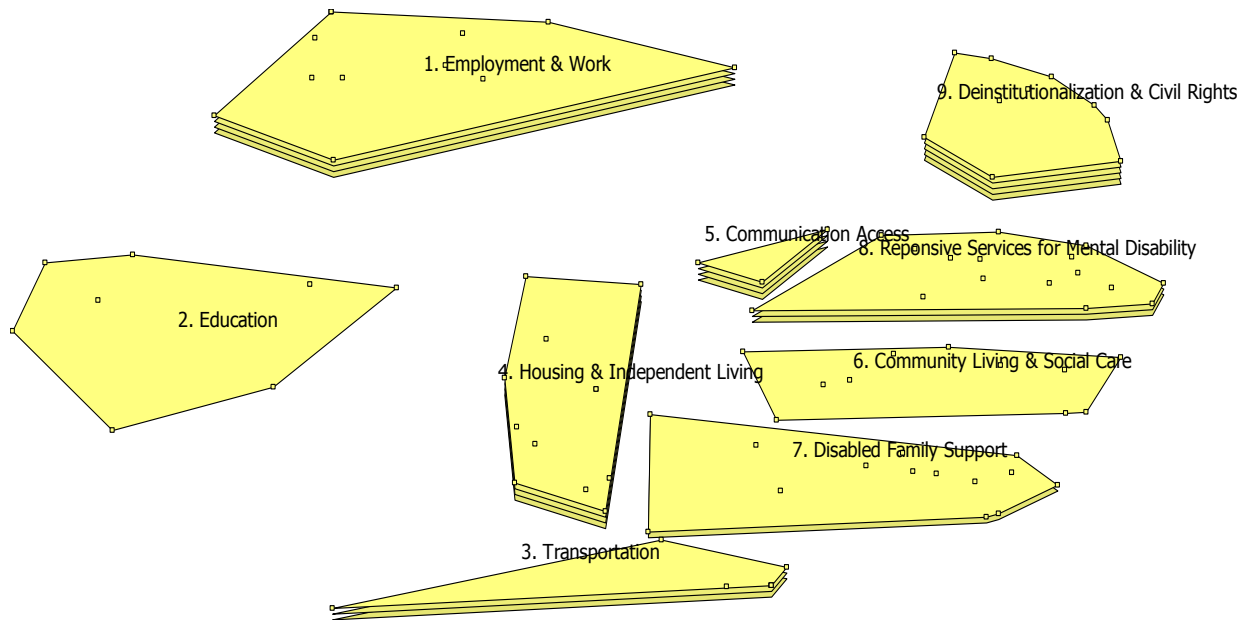
### 3. 倫理的配慮

本研究に参加した25名の社会的に立場の弱い障害者(又は親)には、ソウル市議会の研究費支援を通して行われている本研究の目的を忠実に説明し、一人一人に参加に関する同意を求め、いつでも本研究への参加を中止できる旨を明確に伝えた。また、知的障害者についてはインタビュー中に受ける可能のある心理的又は情緒的な圧迫を防止するために、知的障害者本人が望む場合は保護者が参加できるようにした。本研究を通して得た個人情報や個人的な意見については守秘義務を徹底した。

### 4. 研究結果

その結果、雇用と労働、教育、交通、住居と自立生活、意思疎通(コミュニケーション)へのアクセス、地域社会ケア、障害者の家族支援、精神障害者のためのサービス、そして脱施設と権利、など9個にわたるアジェンダのカテゴリーを導出した。これらのアジェンダについて、概念地図とパターンマッチ、そしてその重要性と実現可能性全てにおいて平均以上の点数を得た27個のアジェンダについて分析などを通し

て、施設障害者の人権、知的・自閉性障害者と雇用、そして自立生活と住居などのアジェンダカテゴリーが他のアジェンダに比べて、より重要だと認識されていることを確認した。



<図1. Clusters RatingMap>

## 5. 考察

本研究の結果、最も重要な政策アジェンダとして表れた施設障害者の人権問題は、特段の措置を通して解決しなければならない韓国社会の優先課題だと考えられる。障害者政策の環境変化の核心は、社会モデルに沿って、障害当事者の自己決定がより重要視されることにある。施設で暮らす障害者の人権を保障するために今必要なアジェンダは、施設の入・退所に関して障害当事者の自己決定が尊重されるような代案(option)を準備することだ。また、保健医療分野として分類されており、自立生活を目指すソウル市の障害者政策から除外されている精神障害者の自己決定権を保障することができる方法も準備が急がれる。